



ジャズベーシスト

い じ ち だ い す け 伊地知 大輔 さん

幼少期はピアノを習っていました。小学・中学と野球や習い事のほか遊んでばかりで、音楽とはほぼ無縁の生活を送っていました。その後大学へ進学し、サークル見学でジャズ研究会をのぞいたのがジャズとの出会い。先輩の口車に乗せられてトントン拍子で入部が決まり、担当楽器を選ぶことに。ここでも先輩にうまく乗せられてコントラバス(ウッドベース)を選択しました。もちろん、これまで触ったこともない楽器だった

ので、練習は大変苦勞しましたが、同大学の先輩で現在はプロベーシストの楠井五月(くすいさつき)さんを始めた。少しづつ外での演奏も経験するようになり。同部の部長に就任した大学3年からは、特定の集まった人で自由に演奏する「セッション」を毎日行い、色々なミュージシャンとの演奏でとても鍛えられたのを覚えています。ちょうどその頃は、平成23年3月に発生した東日本大震災直後で

大混乱の真っ最中。なかなか就職先が見つからなかったこともあり、ここまできたら音楽を後悔しないように続けてみようかとプロになることを決意しました。

「ジャズ」という音楽は敷居が高いイメージがありますが、もともとはクラシックと黒人の音楽が融合してできたもので、当時はダンスミュージックでもありました。ジャズの醍醐味(だいごみ)はライブが生み出す「パッション(情熱)」や「エネルギー」。内容が理解できなくても「何かいいな」と感じるだけいいので、気軽に聴きにきて欲しいと思います。私は今年でプロ13年目になりますが、現在は主に東京都内でライブやセッション、レコーディングなど、ありがたいことに忙しい日々を過ごしています。今後は、「まちおこし」として故郷鹿屋を音楽の力で盛り上げられるよう演奏活動の幅を地域に広げていくのが目標です。



▼公式webサイト



▼ファーストalbum
テンテーション
「temptation」(1枚
2,000円)が発売中。
公式webサイトから購入可能。

【右】伊地知氏がリーダーを務めるバンド「temp」のアルバムが昨年リリース
【左】ファーストアルバムの発売を記念して九州5か所で凱旋ツアーを実施。
ツアーファイナルは今年6月に故郷の鹿屋市内で迎えた。

information

法政大に進学しジャズに出逢う。音楽以外にも、料理や釣り、麻雀や囲碁など多趣味。自身のライブに関するSNSの情報発信は、8割方食べ物に関する写真を添えて投稿するお茶目な一面も。周囲の演奏者を冷静に支える安定感のあるプレイスタイルに定評がある。鹿屋市出身で現在は都内に在住。